平成18年度　病害虫発生予察情報　臨時情報第１号

平成18年８月４日
島　　根　　県

トビイロウンカが、７月18日を中心に数波にわたって飛来し、現在、成虫の生息密度が、近年になく高まっています。今後、本虫による被害が発生する恐れがあるので、臨時情報を発表します。現地では発生状況の把握に努め、適切な防除対策を講じてください。

記

１．病害虫名　　トビイロウンカ
２．発生地域　　県下全域
３．発生時期　　主として８月上旬～（第１世代若～中齢幼虫）
４．発生量　　多い

５．注意報発表の根拠

１）予察灯（出雲市）でのトビイロウンカの誘引数は42頭（４～７月累積、平年12.6頭）で平年に比べて多い。

２）７月26～31日の払い落とし調査では、成虫が主体であり、虫数0.6頭/50株（※平年1.8頭）、発生圃場率24.1%(平年10.1%)である。この時期としては、生息密度が高く、過去10年間で平成10年に次いで多い発生量となっている。

※平年値は平成10年の多飛来の影響が大きく、同年を除外すると0.1頭/50株となる。

H18	平均	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7	
0.6	1.8	0	0	0.3	0	0	0	0.04	17.6	0.2	0.1	0.3	頭/50株

３）１ヶ月予報(７月28日広島地方気象台発表)によると、気温は平年並みか高く、晴れる日が多い見込みであり、トビイロウンカの増殖に好適な条件が予想される。

６．防除対策及び防除上の注意事項

１）散布にあたってはトビイロウンカの生息部位である株元に、薬剤が十分到達する散布器具、方法を用いる。
２）散布後は防除効果の確認を必ず行い、その後も発生状況の推移に注意する。本虫は同一圃場内でも生息密度の差がかなりみられるので、発生状況の確認は数か所で行う。
３）薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。

７．薬剤による防除

１）種類、使用時期、使用回数及び使用量・濃度(本田期)

薬　剤　名	使用時期、使用回数及び使用量・濃度(本田期)	系統名
スミチオン粉剤3DL	収穫１４日前まで　３回以内 （ただし出穂前は１回）　3～4kg/10a	有機リン系

アプロード水和剤	収穫　７日前まで　４回以内　1000～2000倍	IGR系
アプロード粉剤DL	収穫　７日前まで　４回以内　３～４kg	
アドマイヤー水和剤	収穫３０日前まで　２回以内　2000倍	ネオニコチノイド系
アドマイヤー粉剤DL	収穫２１日前まで　２回以内　３～４kg	
スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL	収穫　７日前まで　３回以内　３kg	
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	収穫　７日前まで　３回以内　３kg	
ダントツ粉剤DL	収穫１４日前まで　３回以内　３～４kg	
ダントツ粒剤	収穫１４日前まで　３回以内　３kg	
Mr.ジョーカーEW	収穫１４日前まで　２回以内　2000倍	合成ピレスロイド系
Mr.ジョーカー粉剤DL	収穫　７日前まで　２回以内　３～４kg	
トレボン乳剤	収穫２１日前まで　３回以内　1000～2000倍	
トレボン粉剤DL	収穫　７日前まで　３回以内　３～４kg	
トレボン粒剤	収穫２１日前まで　３回以内　２～３kg	

２）散布量

10ａ当り液剤150㍑、粉剤、粒剤は所定量を散布する。

３）散布時期

８月上旬の成虫及び若齢幼虫ふ化期に散布する。第２世代若中齢幼虫期の防除は、第１世代老齢幼虫～成虫期（８月中～下旬）に成幼虫が１株当たり１頭程度以上であれば必要である。